

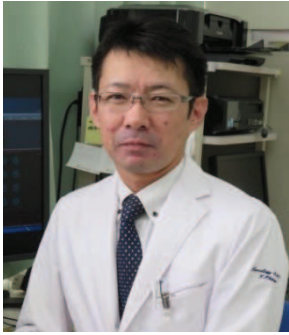
ファミリー・ホスピス かわら版

令和2年
10月号
(2020年)

はじめに

日頃より大変お世話になっております。難病支援を担当している大宮と申します。先月号では、神経難病患者さんへの必要なケアとして「コミュニケーション」「栄養」「呼吸」の3つの柱をご紹介いたしました。

今回は、最も基本的である「コミュニケーション」についてお話ししたいと思えます。「人」と「人」とが良好な関係性を構築するためにはコミュニケーションは無くてはならないものです。日常的な支援や質の高いケアを行う上では更に重要な意味を持っています。



日本ホスピスホールディングス(株)
難病リハビリ シニア・ディレクター
大宮貴明 (理学療法士・鍼灸師)

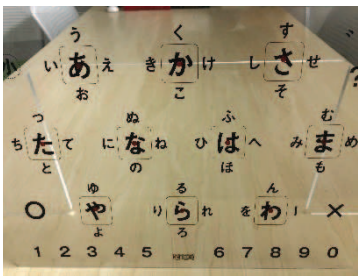
・吉野内科・神経内科医院【非常勤・現職】
・鎌ヶ谷総合病院 千葉神経難病医療センター
・難病脳内科【非常勤・現職】
・全国SCDM/MSA 友の会 医療顧問 など

しかし多くの神経難病では、構音障害や肢体不自由により意思を伝えることが難しくなります。また進行に伴い、今まで行っていた方法が出来なくなり療養生活に困窮する状況は決して少なくありません。

色々な「コミュニケーション

▼ ロータク & 基本編

最も簡単な手段としては、頷き・首振り・瞬き・アイコンタクトなどが一般的です。YES/NOで答えられる簡便な方法です。ここでの注意点は、介助者側が選択肢を適切に提示できているか？が重要です。YES/NOだけではなく、「考え中」や「どちらでもよい」など答え易く提示するなど工夫することが大切です。



透明度が高く人気の
フリック式文字盤
(ICT 救助隊作製)

自発的な訴えの表出には、「指さし文字盤」や「透明文字盤」を使うことが簡便です。対象者には市販品やオリジナルで作成したものを試して貰っています。導入時には動かしやすい部位(手指や足趾等)で開始し、徐々に目の動きで表出できるように訓練していきます。これには介助側の訓練も含まれており、患者さんごとの癖や特徴に慣れることも大切になります。



市販のスイッチが接続可能！
特殊スイッチ対応コール
(GCOMM 社製)

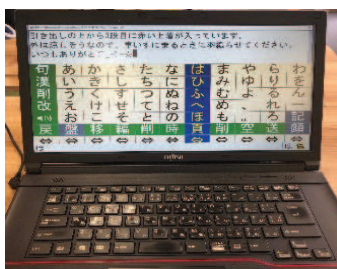
また、助けが必要な時にナースコールで人を呼ぶことも重要なコミュニケーションの一つです。ファミリー・ホスピスでは、通常のナースコールが押せない方でも対応可能なように、特殊スイッチを接続できるよう工夫されています。可能な手段(呼吸・タッチ・エアバックなど)を試し調整しながらコールすることを諦めません。

▼ ハイテク & 応用編

現在は様々なデジタル機器が普及しており、障害を持つている方でも便利に使える時代です。スマートフォン・タブレット・パソコン等々が代表的です。アシスト機能(スクリーンキーボード・スイッチコントロールなど)が標準装備されている機種もあり、障害に応じた提案や設定をフォロー

し生活の幅を広げていただいています。デジタル機器を使用することで施設外とのコミュニケーション(メール・LINE等)も可能となるほか、社会参加(SNS・Web会議等)へと生活範囲を拡大することも可能です。

また、これら「コミュニケーション」が症状進行時にも継続できるよう福祉機器も進化しています。障害福祉サービスで申請可能な「重度障害者意思伝達装置」により、微細な動作(筋収縮・筋電位)や視線の入力で操作可能な機器が多数開発・販売されています。



【重度意思伝達装置
・ 備品一覧】
・ 伝の心
・ TC-SCAN
・ miyasuku-eye Con
・ Orihime

これら機器・特殊入力スイッチについては、ご入居中にお試しできるようにグループ内で備品を準備しています。ご本人の希望と身体機能を検討し最適な機器をご提案しています。

▼ タイミングを逃さない！

多くの神経難病は、進行性であり身体機能に変化していきます。ご本人の心理面へも配慮しながら、適切な時期に提案・介入することが自発的なコミュニケーション維持に繋がります。

考えながら コロナと戦う

マスク・手洗い・消毒・検温はもちろんのこと、当ハウスでは特に「食堂」と「共有端末」に注意して予防策を講じています。職員が休憩に使用している食堂では、毎日テーブルなどが触れるもの全てを消毒し、休憩時間中は窓も開放しています。テーブルも窓側に寄せ、会話による飛沫感染の予防に努めています。



休憩中の職員の様子

見えないウイルスとの戦い

職員が共有しているパソコン端末、タブレットは通常の消毒後、さらに抗菌効果があるといわれる「グリンネオ」の噴霧も行っております。複数の医療機関で「食堂」と「共有端末」から感染拡大したという教訓を活かし、念には念を入れての予防対策です。見えないウイルスと戦い続けることは消耗戦であると同時に持久戦です。日々怠ることなく安全を追求する必要性を感じています。



共有端末 消毒の様子

伝えたい情報は分かりやすく迅速に伝える

本コロナ対策についてのマニュアルや文書を色々作成してきましたが、更に安全運営の徹底を図るため、池上ハウスでは「安全デザイン」でみんなと情報共有をしています。コミュニケーションにおける言語の役割の割合は3割程度と言われていますので、非言語コミュニケーションも重視しながらの情報共有を図っています。



安全デザインでの情報共有

出す コロナ対策から価値を生み出す

ご入居者様にとって買い物も大きな楽しみ。コロナを理由に禁止するのではなく、どうすればリスクを低減しながら実現できるのかをみんなで考えました「移動スーパー

とくし丸」様にご協力いただき、ご入居者様に週1回の買い物を楽しんでもらっています。なお販売職員の消毒・手袋・マスク装着、ご入居者様の手指消毒、車椅子の消毒などの対策も徹底しております。



移動スーパーでの買い物の様子

お知らせ

ファミリー・ホスピス池上ハウスでは、安全最優先の運営でホスピスマインドを高く掲げて地域に必要とされるハウス運営を目指してまいります。

また、空室も若干数ございますので、お気軽にお問い合わせください。

【問い合わせ先】

ファミリー・ホスピス池上ハウス
センター長代行 おがわまで

☎03-6410-5900